

指導者実習資料 1

第2章「マナーとコミュニケーション」「3 コミュニケーション」における、上手な話し方に関する質問・討議・まとめを行う。

本来の指導者によるコミュニケーション・ゲームが終了した後、次のところからこの欄の最後に記述されている本来の指導者による講評の前までを指導者実習1に当たる研修参加者が指導する。

【話し方】
(20分)

○（発言・質問）上手な話し方について検討していく旨話し、次の質問をする。

・みなさんが住民に話をするとき、話が正確に伝わるように、また、相手の住民にみなさんの話をしっかりと聞いてもらえるようにするために、どのような点に注意して話していますか。

○（回答・板書・討議）参加者の回答を板書し、上手な話し方のポイントは何かについて討議する。

ー上記質問に対する回答例ー

- ・明るく、はっきりしゃべる
- ・相手の知識に合わせて話す
- ・具体的に話す
- ・相手の目を見て話す

○（配布・説明）シート13「上手な話し方」を配布し、上記の討議に言及しながら説明する。

◆指導者実習1
はここから始まる。（15分）

◆指導者実習1
はここで終了する。

○（講評）本来の指導者が、指導者実習を行った研修参加者の指導ぶりについて講評するとともに、必要に応じてシート１７「上手な話し方」の説明を補足する。

【指導する際の留意点】

- 質問の表現は、上記のとおりでなくてもよい。自分で表現を言い換えたり、補足して、研修参加者が何を答えたらよいのか迷うことのないようにする。
- 研修参加者から回答が出ない場合には、研修参加者が質問の意味を理解していない可能性があるので質問を言い換える。それでも回答が出ない場合には、どのような回答をしたらよいのかのヒントを与えるために、指導者が回答の例を一つ挙げるとよい。
- 板書はポイントだけでよい。研修参加者の回答を聞くことよりも板書に夢中になってはいけない。
- 上記の回答例は、質問に対する解答を示したものではなく、予想される回答の例示にすぎない。したがって、無理に回答例のような回答を出させる必要はない。
- 研修参加者による討議は、質問に対する解答を導き出すことがねらいではないので、無理にシート１７に書かれた方向で討議をまとめる必要はない。
- シート１７を説明する際には、そこに書かれたことは一つの考え方であり、唯一の正解というわけではないことに留意する。